一　府縣其ノ他ノ公共團體又ハ會社等ノ爲メ債券株券ニ關スル事項ノ委託ヲ受クルコト

二　府縣其ノ他ノ公共團體又ハ會社等ノ依頼ニ應シ公債又ハ社債ヲ發行シ若ハ其ノ依頼ニ應シ公債社債ノ元利金ノ支拂又ハ株主ニ對シ利益金ノ配當支拂ヲ爲スコト

第四十條　當銀行ノ貸付期限ハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十一條　當銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ公債社債ノ買入ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　當銀行ハ自己ノ株券若ハ債券ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四十三條　當銀行ハ左ニ記載スル場合ヲ除クノ外不動産ヲ取得スルコトヲ得ス

一　營業用地所家屋

二　債務辨濟ノ爲メ引渡サレタル不動産

三　裁判上引渡サレタル不動産

前項第二號第三號ノ不動産ハ速ニ之ヲ處分スヘシ

第四十四條　當銀行ノ役員及使用人ハ當銀行ヨリ負債ヲ爲スコトヲ得ス

第七章　債券

第四十五條　當銀行ヨリ發行スル債券ハ券面金額ヲ五拾圓以上トシ無記名利札付トス但應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スヘシ

第四十六條　債券ノ發行高ハ拂込資本金高ノ五倍ヲ限リトス又其ノ發行高ハ貸付金現在高及其ノ所有ニ係ル地方債證券及社債券ヲ時價ヲ以テ積算セシ現在高ヲ超過スルコトヲ得ス但

ノ借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ハ一時此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四十七條　債券ノ利子ハ毎年二回發行ノ時定メタル月ニ於テ前ノ六箇月分ヲ利札引換ニ仕拂フヘシ

第四十八條　債券ノ償還期限ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内トシ當銀行ノ都合ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第四十九條　債券若ハ利札ニシテ滅失紛失シ又ハ盜取セラレタルトキハ公示催告ノ手續ヲ爲シ無效ノ宣告アリタル後ニアラサレハ當銀行ハ代リ債券若ハ利札ヲ交付セサルモノトス但記名債券ニ付テハ第十一條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

公示催告ニ關スル費用ハ債券所有者ノ負擔トス

第五十條　記名債券ヲ無記名ニ無記名債券ヲ記名ニ書換ヲ爲ス場合又ハ滅失紛失シ盜取セラレ若ハ汚染毀損等ノ爲メ代リ債券交付ノ場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付參拾錢ノ手數料ヲ徵ス

記名債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付拾五錢ノ手數料ヲ徵ス

第五十一條　當銀行ハ債券發行ノ基礎トナレル貸付金ノ償還延滯シ又社債券ニシテ之ヲ發行シタル會社解散ノ爲元金全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ速ニ其ノ延滯金額又ハ償還ヲ得サル社債券ノ價格ニ相當スル債券ヲ償還スルカ又ハ他ノ有價證券ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第五十二條　當銀行ノ所有ニ係ル地方債證券及社債券ニシテ其ノ時價減少シ第四十六條ノ制

限ヲ降ルトキハ他ノ地方債證券又ハ社債券ヲ以テ之ヲ補充スルカ若ハ其ノ超過額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第八章 計算

第五十三條 當銀行ノ營業年度ハ毎年一月ヨリ六月マテ及七月ヨリ十二月マテトシ總裁ハ各年度ノ終ニ於テ諸勘定ヲ決算シ財產目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益金分配案ヲ作リ之ヲ定時總會ニ提出スヘシ

第五十四條 利益金分配ノ方法ハ總益金ヨリ諸仕拂利息、給料、旅費其ノ他一切ノ營業費及諸損ヲ引去リ其ノ殘額ヲ以テ利益金トシ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

一 利益金百分ノ八以上 損失補塡準備金

二 利益金百分ノ二以上 配當平均準備金

三 右二項ノ金額ヲ引去リ其ノ殘額ノ內ヨリ拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ以テ第一配當金トス

四 右三項ヲ引去リ其內ヨリ利益ノ百分ノ十以內ヲ重役賞與金トシテ引去リ尙殘額アルトキハ之ヲ第二配當金トシテ株主ニ配當シ又ハ後期繰越金トスヘシ

第五十五條 當銀行創立初期ヨリ五箇年間ハ前條第一號及第二號ノ準備金ヲ引去リタル殘額拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ニ達セサルトキハ之ニ達セシムヘシ金額ハ政府ノ補給ヲ受クルモノトス

第五十六條 損失補塡準備金ハ損失ニ因リ資本ニ缺額ヲ生シタルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供スル

配當平均準備金ハ配當金拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ之ヲ補充スルノ用ニ供ス

創立初期ヨリ五箇年間ハ前二項ノ補充額ハ政府ノ補給ヲ受ケ尙ホ不足アル場合ニ其ノ不足額ニ限リ之ヲ補充ス

第五十七條 當銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニアラサレハ株主ニ利益金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

配當金ノ拂渡期日ハ總裁之ヲ定メ各株主ニ通知ス

明治三十四年九月ニ至リ金融漸ク順調ニ復シ時期既ニ到達シタルヲ以テ再ヒ委員會ヲ開キテ株主募集ノ方法ヲ議決シ直チニ其準備ニ著手シ同年十二月五日設立委員事務所ヲ大藏省構內ニ設置シ同年十二月二十三日始メテ株主募集ノ公告ヲナシ其申込期ヲ明治三十五年二月一日ヨリトセリ而シテ玆ニ注意スヘキハ香港上海銀行カ株主募集ノ事務ヲ執リタルコトニシテ外國銀行カ本邦ニ於ケル此種ノ事務ヲ取扱ヒタルハ實ニ之ヲ以テ嚆矢トス而シテ株主ノ募集ハ非常ナル好望ヲ以テ一般社會ノ迎フル所トナリ申込期間ノ第一日卽チ二月一日ニ於テ申込株數ハ早ク旣ニ所要株數ノ三倍餘ニ達シタルヲ以テ翌二日募集締切ヲナシ同月十七日抽籤ニヨリテ募入株ヲ定メタリ此ニ於テ同月二十日設立免許ヲ申請シテ翌二十一日之カ認可ヲ得三月十日ヲ以テ株金第一回ノ拂込ヲ終了セリ次テ三月二十七日役員ノ任命アリ同時ニ設立委員ヨリ總裁ニ對スル事務ノ引渡アリ又翌二十八日ヲ以テ創立總會ノ開設アリ明治三十五年四月十一日、日本興業銀行ノ開業ヲ見ルニ至レリ

第四節 興業債券

動產銀行タル興業銀行ニ在リテハ其資本ノ停滯スルコト不動產銀行タル勸業銀行ノ如ク甚シカラスト雖モ之ヲ普通ノ商業銀行ニ比スレハ固ヨリ同日ノ論ニアラス故ニ債券ノ力ニ依ルニアラスンハ決シテ其目的ヲ達スルヲ得ス是レ日本興業銀行法第十二條ニ日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得トノ明文アル所以ナリ而シテ農業ハ工業ニ比シテ薄利ナルヲ通例トスレハ勸業銀行ニ於テハ出來得ル丈ケ低利ヲ以テ債券ヲ發行シ低利ノ貸付ヲ要スルモ興業銀行ニ於テハ必スシモ然ラサルカ故ニ興業銀行債券ノ發行ハ勸業銀行債券ノ發行ニ比シテ少シク其情況ヲ異ニセリ而シテ後者ニ特典アリテ前者ニ之ナキ所以モ亦主トシテコヽニ存ス興業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札付ヲ本則トス又利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其元金ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以內ニ抽籤ニヨリ償還スルノ規定ナリ

次ニ興業債券發行ノ狀況ヲ看ルニ明治三十五年ニ於ケル興業債券ノ總發行高ハ參百萬圓ニシテ年末殘高モ同額ナリ今其每回ニ付テ發行ノ景況ヲ示セハ左ノ如シ

債券發行回數	發行時期	利率	金額
第一回	明治三十五年十月	分 六、五	二、〇〇〇、〇〇〇 円
第二回	同	六、五	一、〇〇〇、〇〇〇
總計			三、〇〇〇、〇〇〇

第五節 保護監督

日本興業銀行ノ保護ニ付テハ同銀行法第二十六條ニ於テ「日本興業銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給額ハ如何ナル場合ト雖モ拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス」ト規定セリ而シテ明治三十五年ニ於テハ政府ハ上半期ニ貳萬貳千五百四拾七圓下半期ニ四萬千九百九拾四圓合計六萬四千五百四拾壹圓ヲ補給シタリ

次ニ監督ニ就テハ日本興業銀行法第十八條以下ニ於テ之ヲ規定シ政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督シ定款ノ變更代理店又ハ支店ノ設置配當金ノ分配ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケシメ其他營業ノ景況及計算報告書ヲ主務大臣ニ差出スヘキモノトセリ而シテ同銀行開業ノ日漸ク近ツクニ及ヒ明治三十五年四月七日大藏大臣ハ監督上必要ノ條件ヲ同銀行ニ命令スル所アリタリ卽チ左ノ如シ

命令書

日本興業銀行法第十八條及第二十三條ニ依リ左ノ條々ヲ命令ス

第一條 日本興業銀行ニ於テ商法ノ規定ニ依リ登記ヲ受ケタルトキハ速ニ其謄本ヲ添ヘテ大藏大臣ニ屆出ツヘシ但設立登記ノ場合ニハ商法第二十六條ニ依ル貸借對照表ヲ添付スヘシ

第二條 日本興業銀行ハ營業上ニ使用スル印章ヲ定メタルトキハ其印鑑ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ之ヲ變更シ又ハ改刻スルトキ亦同シ

第三條　日本興業銀行ニ於テ代理店ヲ設置セントスルトキハ其代理契約書案ヲ添ヘテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ其代理契約ノ條款ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止スルトキ亦同シ

第四條　日本興業銀行ニ於テ左ニ揭クル規程ヲ設ケタルトキハ施行前ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

一　分課規程
二　旅費規則
三　給與規則
四　其他ノ內規
五　貸出規則
六　預リ金及保護預リニ關スル規則
七　信託ニ關スル規則
八　債券規則

第五條　日本興業銀行ニ關スル訴訟ハ其原告タルト被告タルトヲ問ハス其訴狀及宣告文ノ謄本ヲ添ヘテ大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第六條　株主總會ヲ開カントスルトキハ開會二週間前ニ日時場所及議事ノ項目ヲ監理官ニ通知シ且大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第七條　日本興業銀行ニ於テ公債、社債ノ引受ヲ爲サントスルトキハ引受ヘキ公債、社債ノ種類、金額其他契約ニ關スル要件ヲ具シテ大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第八條　日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行セントスルトキハ其募集公告ノ日ヨリ少ナクトモ二週間前ニ大藏大臣ニ認可ヲ申請スヘシ其申請書ニハ募集公告文竝債券ノ基礎トナルヘキ現在貸付金及公債、社債券ノ時價換算高ト債券ノ現流通高トノ對照表ヲ添付スヘシ

第九條　債券金額ノ拂込ヲ完了シ其登記ヲ了シタルトキハ登記謄本ニ左ノ事項ヲ記載シタル計算書ヲ添ヘ大藏大臣ニ屆出ツヘシ

一　應募券面額及其價格
二　應募價格ノ最高最低及平均
三　募入ノ口數金額（公共團體、會社、各人ヲ區別シ）
四　確定募入券面額ト價格（卽チ銀行ノ實收スヘキ金額）及其較差額

第十條　債券ノ抽籤償還ヲ執行セントスルトキハ抽籤償還スヘキ債券面額及其日時場所ヲ定メ豫メ監理官ニ通知シテ其立會ヲ請フヘシ

第十一條　債券ノ抽籤ヲ了リタルトキハ其當籤債券ノ種類、枚數、金額ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ大藏大臣ニ屆出ツヘシ但シ當籤債券ノ發行年度及利率ヲ異ニスルモノハ之ヲ區別スルヲ要ス

第十二條　日本興業銀行法第十六條ニ依リ借換ノ爲メ低利ノ債券ヲ發行セントスルトキハ借換フヘキ舊債券ノ償還高ヲ豫定シ借換ノ必要ナル事由ヲ具シテ大藏大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第十三條　日本興業銀行ハ每月左ニ揭クル計表ヲ製シ翌月十日マテニ大藏大臣ニ差出スヘシ

一　毎月實際報告表
二　毎月貸付金內譯表
三　毎月公債社債券應募又ハ引受高內譯表
四　毎月信託諸證券內譯表

第十四條　日本興業銀行ハ毎營業年度定時總會ニ於テ利益金ノ分配案ヲ議決シタルトキハ第十五條ノ半期實際報告表及損益計算書ヲ添ヘテ大藏大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

政府ヨリ補給ヲ受クヘキ金額ハ創業ノ初期ニ在テハ創立總會結了ノ日卽チ會社成立ノ日ヨリ起算シ株式第二回以後ノ拂込アリタル場合ニハ毎回金額ノ拂込ヲ了シタル日ヨリ起算シ日割ヲ以テ其金額ノ割合ヲ算出スヘシ

第十五條　日本興業銀行ハ毎營業年度左ノ計表及報告書ヲ製シテ大藏大臣ニ差出スヘシ

一　半期實際報告表
二　損益計算書
三　營業報告書
四　株主姓名表

第十六條　日本興業銀行ハ營業帳簿ニ用キル勘定科目ヲ定メテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十七條　日本興業銀行ハ一營業年度間ノ收支計算書付屬證憑書類ヲ勘定科目別ニ編成シ定時總會二週間前ニ大藏省理財局ニ差出シテ檢查ヲ受クヘシ

第十八條　日本興業銀行ヨリ差出ス諸計表報告書及願伺屆書ニハ總裁記名調印シ行印ヲ捺スヘシ營業報告書ニハ總裁理事監查役ノ總員之ニ記名調印シ行印ヲ捺スヘシ

第十九條　日本興業銀行ニ於テ營業時間ヲ變更セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條　日本興業銀行ニ於テ臨時ニ休業セントスルトキハ豫シメ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル上其旨ヲ公告スヘシ

第二十一條　總裁旅行其他ノ事故ニ依リ行務ヲ執ルコト能ハサルトキハ代理人ヲ定メ其旨屆出ツヘシ歸京又ハ委任解除ノ場合亦同シ

第二十二條　日本興業銀行ノ業務上重大ノ事件アルトキハ速ニ大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第二十三條　前各條ノ外大藏大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ命令スルコトアルヘシ

又日本興業銀行法第二十四條以下ニ於テ主務大臣タル大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ置キ同行ノ業務ヲ監視セシメ監理官ハ大藏大臣ノ命ヲ受ケ日本興業銀行諸般ノ事務ヲ監視シ何時ニテモ同行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢查シ且營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシメ又株主總會其他諸般ノ會議ニ臨席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルノ職權ヲ有スルモノトセリ

此ニ於テ日本興業銀行ノ開業ニ先チ政府ハ之カ監理官ヲ任命シ明治三十五年四月九日要務規程ヲ達シ次テ同月十一日之ヲ日本興業銀行ニ達セリ今左ニ其全文ヲ揭ケン

日本興業銀行監理官要務規程

第一條　日本興業銀行監理官ハ毎週一回以上日本興業銀行ニ臨監シ同行各部局擔任ノ事務ヲ質問監查スルモノトス

第二條　日本興業銀行監理官ハ必要ナリト認ムルトキハ同行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査シ又ハ同行重役ヲシテ計算書、報告書等ヲ差出サシムルコトヲ得

第三條　日本興業銀行監理官ハ必要ナリト認ムルトキハ重役會及株主總會ニ臨席スヘシ此場合ニ於テハ意見ヲ陳述スルコトヲ得ヘシ

第四條　日本興業銀行監理官ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ速ニ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五條　日本興業銀行監理官ハ日本興業銀行ノ事務執行上改正ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其意見ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第六條　日本興業銀行監理官ハ日本興業銀行ノ諸願伺等ニ對スル指令其他ノ命令ニ關シ主任局ノ合議ヲ受クルモノトス

第七條　第一條ニ依リ日本興業銀行ニ臨監シテ監査スル事項ハ別紙事務調査心得ニ據ルヘシ

（別紙）

日本興業銀行監理官事務調査心得書

第一條　日本興業銀行定款第三條第二項ニ依リ設置スヘキ支店及代理店ノ適否ヲ調査スルコト

契約濟代理店ノ一覽表ヲ調製セシムルコト

第二條　公債社債及株券ヲ質トスル貸付ノ金額及利子割合ノ適否ヲ調査スルコト

前項社債券及株券ヲ發行スル會社ノ資力信用及ヒ該債券、株券ノ擔保價格ノ時價ニ對スル割合ノ適否ヲ調査スルコト

第三條　諸貸出金及貸物在高表ヲ調製セシムルコト

第四條　諸貸出金中自己ノ株券若ハ債券ヲ直接又ハ間接ニ質權ノ目的トスルモノナキヤ否ヤヲ調査スルコト

第五條　公債社債ノ應募又ハ引受ニ付テハ其金額及引受價格ノ適否ヲ調査スルコト

前項ノ引受カ「シンジゲート」ナルトキハ其契約ニ關スル事項ヲ調査スルコト

第六條　定款第三十九條第一號ノ信託業務ニ關シテハ債券株券ニ關スル委託事項ヲ調査スルコト

第七條　定款第三十九條第二號ノ信託業務ニ關シテハ委託者ノ信用資力及公債社債ノ發行高及其價格利率償還期限等ヲ調査シ又公債社債ノ元利金配當金ノ受拂事務及委託者ノ爲メ權利執行ノ狀況ヲ調査スルコト

第八條　餘裕金ノ運轉ハ適法ナルヤ否ヤヲ調査スルコト

每月餘裕金ヲ以テ買入タル公債及社債券在高表ヲ調製セシムルコト

第九條　取得シタル不動產アルトキハ取得ノ原因及之カ處分ノ適否ヲ調査スルコト

第十條　債券發行ニ付左ノ諸項ヲ調査スルコト

合ノ適否ヲ調査スルコト

每月諸貸出金及質物在高表ヲ調製セシムルコト

第三條　諸貸出高ハ直接又ハ間接ニ役員又ハ使用人ニ對スル取引ナキヤ否ヤヲ調査スルコト

第四條　諸貸出金中自己ノ株券若ハ債券ヲ直接又ハ間接ニ質權ノ目的トスルモノナキヤ否ヤヲ調査スルコト

第五條　公債社債ノ應募又ハ引受ニ付テハ其金額及引受價格ノ適否ヲ調査スルコト

前項ノ引受カ「シンジゲート」ナルトキハ其契約ニ關スル事項ヲ調査スルコト

第六條　定款第三十九條第一號ノ信託業務ニ付テハ債券株券ニ關スル委託事項ヲ調査スルコト

第七條　定款第三十九條第二號ノ信託業務ニ關シテハ委託者ノ信用資力及公債社債ノ發行高及其價格利率償還期限等ヲ調査シ又公債社債ノ元利金配當金ノ受拂事務及委託者ノ爲メ權利執行ノ狀況ヲ調査スルコト

第八條　餘裕金ノ運轉ハ適法ナルヤ否ヤヲ調査スルコト

每月餘裕金ヲ以テ買入タル公債及社債券在高表ヲ調製セシムルコト

第九條　取得シタル不動產アルトキハ取得ノ原因及之カ處分ノ適否ヲ調査スルコト

第十條　債券發行ニ付左ノ諸項ヲ調査スルコト

一　債券ノ發行高發行價格利子歩合償還高及償還期限ノ適否

二　債券發行ノ基礎トナレル貸付金地方債證券及社債券ノ種類價格ハ日本興業銀行法第十二條ノ制限ニ背戻セサルヤ否ヤヲ調査スルコト

第十一條　毎月前條ノ債券發行高償還高及其擔保トナレル貸付金地方債券會社債券在高表ヲ調製セシムルコト

第十二條　株券、債券ノ製造高竝ニ豫備券、損傷券、償還券及利札ノ出納保管ニ關スル事ヲ調査スルコト

毎月前項ノ株券、債券ノ在高表ヲ調製セシムルコト

第十三條　各年度ノ終ニ總裁ノ調製シタル財産目錄貸借對照表、營業報告損益計算書及利益金分配案ヲ調査スルコト

第十四條　各年度ノ終ニ收支計算書ニ依リ政府ヨリ受クヘキ補給金額ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査スルコト

第十五條　毎月調査シタル事項ハ毎月末ニ取纏メ報告書ヲ製シ翌月十日迄ニ大藏大臣ニ報告スルコト

但至急若ハ異狀ノ件アルトキハ其時々報告スルコト

第十六條　監理官報告書ハ大藏大臣閱覽濟ノ上、下付セラルヽトキハ理財局ニ於テ取纏メ保存スルコト

第六節　營業

日本興業銀行ハ明治三十五年四月十一日ヲ以テ其營業ヲ開始セリ然ルニ當時一般經濟界ハ沈靜ニ傾キ確實ナル事業資金ノ需要多カラサルト同行カ創業ノ際成ルヘク過失ナキヲ期シ愼重ノ態度ヲ取リシトニ依リ營業上未タ大ニ見ルヘキ者アラサリシ唯漸次ニ確實ナル工業會社鐵道會社等ト取引ヲ開始シ債券參百萬圓ヲ募集シ營業資金ヲ增加シ以テ營業ノ擴張ヲ圖レリ次ニ本年ノ營業ニ付テ特筆スヘキハ公債轉賣ノ一事ナリ初メ六月ノ頃ヨリ其交涉ヲ開キ九月三十日ニ至リ五分利公債五千萬圓ノ引受ヲ政府ニ稟請シ同時ニ香上銀行トノ賣買契約案ヲ提出シ卽日政府ノ認可ヲ得テ香上銀行ト賣買契約ヲ締結セリ而シテ此際政府ノ公債引受賣買ニ關シテ定メシ要件ハ裏書付五分利公債額面五千萬圓ヲ千圓ニ付英貨九十八磅ニテ賣却スルコト及ヒ代リ英貨ハ公債ト引換ニ倫敦ニ於テ政府ニ納付スルコトノ二件ナリキ而シテ其受渡ノ爲メ未タ其取引ヲ結了スルニ至ラスシテ其年ヲ終レリ斯ノ如ク本年ハ創業日尙ホ淺キヲ以テ利益金甚タ多カラサルノミナラス創業費ヲ一期ニ支拂ヒタルヲ以テ政府ノ補給金六萬四千五百四拾壹圓ヲ得テ以テ年五分ノ配當ヲナセリ

資本金積立金　日本興業銀行ハ公稱資本金壹千萬圓ノ內參百萬圓拂込資本金貳百五拾萬圓ヲ以テ營業ヲ開始シ爾後明治三十五年末ニ至リテモ增減アルコトナシ又積立金ハ千百四拾八圓ナリ

出入金　明治三十五年ニ於ケル入金ハ上半期貳千七拾九萬四千六百五拾九圓下半期參千六百四拾貳萬六千八百六拾八圓合計五千七百貳拾貳萬千五百貳拾七圓ニシテ出金ハ上半期貳千七拾八

萬千參百貳拾圓、下半期參千六百貳拾參萬八千參百五拾貳圓合計五千七百壹萬九千六百七拾貳圓ナリ

預金　明治三十五年ニ於ケル預金ノ總預高ハ八百八拾六萬七千六百五圓ニシテ年末殘高ハ百拾萬八千貳百拾參圓ナリ今之ヲ上下兩半期ニ別チテ示セハ左ノ如シ

種類	上半期		下半期	
	總預高	殘高	總預高	殘高
定期預金	五三、五〇〇円	五三、五〇〇円	一、五八六、七〇〇円	三六、七〇〇円
當座預金	四八三、九七六	六、五三二	四、七六〇、九四五	一、〇五〇、八〇一
特別當座預金	六、四二二	三、四六二	一一、四〇六	五、六三七
別段預金	〇	〇	四〇、五〇〇	〇
預金手形	一、三六五、〇〇〇	六三、四九四	六二二、六五〇	一五、〇七五
總計	一、九〇八、八九八		七、〇二二、二〇一	一、一〇八、二一三

種類	一年總預高	
	總預高	殘高
定期預金	一、五八六、七〇〇円	三六、七〇〇円
當座預金	五、二三八、三八九	一四、三六六
別段預金	四〇、五〇〇	〇
預金手形	一、九八七、六五〇	一五、〇七五
總計	八、八六七、六〇五	

借入金　明治三十五年ニ於ケル借入金ノ總額ハ下半期ニ於ケルモノ百參萬五千七百圓ニシテ其年末殘高ハ四萬千八百四拾壹圓ナリ

信託　明治三十五年ニ於ケル信託ノ總受入高ハ下半期ニ於ケルモノ拾萬九千參百貳拾壹圓ニシテ其年末殘高ハ千百拾貳圓ナリ今之ヲ種類別ニシテ示セハ左ノ如シ

種類	總受入高	殘高
信託資金	九、一八七円	一、〇九〇円
信託募集金	五一、〇〇二	二〇
信託取立金	四八、九八〇	二
信託立換金	一五二	〇
總計	一〇九、三二一	一、一一二

貸出金　明治三十五年ニ於ケル貸出金ノ總額ハ四百四拾九萬七千百八圓ニシテ其年末殘高ハ參百貳拾參萬七千六百五拾八圓ナリ今之ヲ上下兩半期ニ別チテ示セハ左ノ如シ

種類	上半期		下半期	
	總貸出高	殘高	總貸出高	殘高
定期貸付金	一、一九九、〇〇〇円	一、一六九、〇〇〇円	四、四五六、一五〇円	三、二三四、七〇〇円
當座預金貸越	〇	〇	一〇、九五八	二、九五八
總計	一、一九九、〇〇〇	一、一六九、〇〇〇	四、四六七、一〇八	三、二三七、六五八

種類	一年總貸出高	
	總貸出高	殘高
定期貸付金	四、四八六、一五〇円	四、四四九七、一〇八
當座預金貸越	一〇、九五八	一〇、九五八
總計	四、四九七、一〇八	四、四九七、一〇八

又明治三十五年末ニ於ケル現在貸付高ニ對スル擔保品ヲ種類ニ依リ區別シテ示セハ左ノ如シ

種類	券面金額	擔保價格
國債證券	一四四、四〇〇円	一二五、六二八円
地方債證券	二八三、〇〇〇	二三一、七五〇
株券	二、六二八、三〇〇	二、七九二、二五四
社債券	二五〇、〇〇〇	二〇六、〇〇〇
總計	三、三〇五、七〇〇	三、三五五、六三二

預ケ金　明治三十五年ニ於ケル預ケ金ノ總額ハ貳千貳百參拾五萬九百拾六圓ニシテ其年末殘高ハ六拾七萬五千貳百貳拾貳圓ナリ今之ヲ上下兩半期ニ別チテ示セハ左ノ如シ

種類	上半期 總預ケ高	上半期 殘高	下半期 總預ケ高	下半期 殘高	一年總預ケ高
當座預ケ金	五、〇一八、二七五円	一八四、一〇五円	一二、二五八、七四六円	七、二二二円	一七、〇九二、九一六円
通知預ケ金	四六〇、〇〇〇	三一〇、〇〇〇	五、一〇八、〇〇〇	六六八、〇〇〇	五、二五八、〇〇〇
總計	五、四七八、二七五	四九四、一〇五	一七、三六六、七四六	六七五、二二二	二二、三五〇、九一六

有價證券　明治三十五年ニ於ケル有價證券ノ買入高ハ上半期貳百四拾萬圓、下半期六百七拾九萬九千參百五拾圓合計八百貳拾五萬參百五拾圓ニシテ年末殘高ハ貳百六拾八萬千七百圓ナリ今三十五年末ニ於ケル有價證券ヲ種類ニ依リ區別シテ示セハ左ノ如シ

種類	券面金額	實價
整理公債	八六六、七〇〇円	七六四、四二九円
大藏省證券	五〇〇、〇〇〇	四八九、八〇〇
勸業債券	一五、〇〇〇	一五、〇七五
京濱電氣鐵道株式會社債券	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
甲武鐵道株式會社債券	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
日本製粉株式會社債券	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
大阪合同紡績株式會社債券	五〇、〇〇〇	四九、〇〇〇
東京板紙株式會社債券	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
總計	二、六八一、七〇〇	二、五六八、三〇四

金銀在高　明治三十五年六月末日ニ於ケル金銀在高ハ壹萬參千參百參拾九圓ニシテ十二月末日ニ於ケル高ハ貳拾萬千八百五拾五圓ナリ

株主人員及株式賣買　明治三十五年末ニ於ケル株主人員ハ千三百七十六人ニシテ之ヲ六月末日ニ比スレハ百五十三人ヲ增加セリ又同年ニ於ケル株式賣買ハ株數五萬七千四十九個此代價百五拾壹萬六千貳百參拾參圓ニシテ平均一株ニ付貳拾六圓五拾八錢ナリ

損益勘定　明治三十五年中ニ於ケル總益金ハ貳拾四萬五百參拾參圓損失金ハ貳拾萬六千貳百七拾壹圓ニシテ差引參萬四千貳百六拾貳圓ハ純益金ナリ此外政府補給金六萬四千五百四拾壹圓ア

銀行集會所及手形交換所

リ合計九萬八千八百參圓ハ利益金ニシテ內貳千七百四拾壹圓ヲ損失補塡準備金ニ六百八拾五圓ヲ配當平均準備金ニ九萬五千參百七拾七圓ヲ配當金ニ充用セリ而シテ此配當割合ハ年五分ニ當レリ

第十三章　銀行集會所及手形交換所

銀行集會所ハ各銀行共同ノ利益ヲ謀ルノ目的ヲ以テ營業上ニ關スル事項ヲ討議シ兼テ切手手形ノ賣買交換ヲ爲ス爲メニ設立シタルモノニシテ現今各地方ニ存在セリ今其概況ヲ左ニ述ヘン

一　大阪銀行集會所及手形交換所

大阪銀行集會所ハ明治十七年九月大阪交換所ヲ改稱セシモノナリ今其沿革ヲ繹スルニ大阪交換所ノ開業ハ實ニ明治十二年十二月一日ナリトス蓋シ大阪ノ地タル關西地方運輸ノ咽喉ヲ扼シ四通八達物貨集散ノ要衝ニシテ從テ其商業ノ盛ナルコト全國ニ冠タリ故ニ商估ハ從來概ネ切手、手形ヲ授受シテ相互ノ取引ヲ決算スルコトヲ慣習トセリ是ヲ以テ切手、手形ノ行ハルヽコト亦他ニ其類ヲ見ス而シテ近來各銀行ノ本支店同府內ニ叢立シ金融ノ路ヲ疏シ取引ノ法ヲ便スルヨリ切手、手形ノ商估ノ間ニ行ハルヽコト更ニ一層ノ劇ヲ加ヘ各銀行互ニ其店頭ニ就テ取付ヲ爲ス其繁實ニ言フ可カラサルニ至レリ是ニ於テ各銀行ハ明治十二年四月ヲ以テ始メテ交換所設立ノ議ヲ起シ同年九月七日ヲ以テ其創立ヲ出願シ其允許ヲ得タリ是レ實ニ我邦交換所ノ嚆矢ト爲ス抑モ交換所ナルモノハ各銀行互ニ其債權ヲ交換シテ其貸借ヲ決算スル所ニシテ授受ノ煩勞ト時間トヲ省クノミナラス之カ爲メ大ニ通貨ノ用ヲ節スルノ功アリ故ニ交換所ハ獨リ銀行ノ組織ニ於テ一大緊要ノ機關タルノミナラス國家ノ經濟ニ於テモ亦缺ク可カラサルモノナリ其第一ノ設置ヲ大阪ニ見タル亦是レ自然ノ勢ナリ

大阪交換所ハ各銀行同盟シテ以テ創立セルモノニシテ其費用ハ之ヲ三分シ其一分ハ各銀行ニ平

分シ又一分ハ交換シタル切手手形ノ枚數ニ課シ又一分ハ其金高ノ多寡ニ課スルモノトス又其役員ハ同盟銀行ヨリ毎週輪番ヲ以テ之ニ任セリ而シテ明治二十八年十二月末日ニ於ケル交換所同盟銀行ト稱スルモノハ國立私立ヲ合セ都テ三十三行ナリシカ明治二十九年四月日本銀行大阪支店內ニ交換所ヲ新設シ其交換尻ハ同支店ニ於テ之ヲ整理スルコトヽナシタルニ因リ舊交換所ノ交換高ハ漸次減少セシヲ以テ舊交換所ハ遂ニ同年十一月ニ至リ解散セリ

二　東京銀行集會所及手形交換所

東京銀行集會所ノ起原ヲ繹ヌルニ明治十年七月中澁澤榮一等ノ首唱ニ由リテ擇善會ナルモノヲ起シ同盟銀行相集テ同業ノ交誼ヲ厚フシ營業上必要ノ談論ヲ爲シ互ニ智識ヲ交換シテ處務ノ得失ヲ講究スルノ目的ヲ以テ其會規ヲ組織セシニ十三年八月ニ至テ大ニ其組織ヲ改革シテ規模漸ク定マルニ及ヒ遂ニ一變シテ集會所トナレリ其同盟銀行ハ都テ三十二行トス而シテ同集會所中爲換取組所ヲ設ケ同盟銀行中ノ爲換取扱ヲ爲セシカ手形條例ノ頒布アルニ際シ更ニ手形ノ取引ヲ擴張スルノ主意ヲ以テ該取組所ヲ廢シテ更ニ手形取引所ヲ設ケテ其業ニ從事セシニ申合規則未タ全キヲ得ス一時中止シ二十年十月中之ヲ改正シテ再ヒ其取引ヲ開ケリ而シテ手形交換所ハ同年十二月ヨリ取引所附屬トシテ其交換ヲ試ミ爾來其成績ノ見ルヘキ者ナキニアラスト雖モ其組織方法尙ホ不完全ナル所アリ加之切手手形ノ取引ハ益〻頻繁ヲ加フルニ從ヒ各銀行ノ交涉勘定漸ク複雜ニ趣キ且日本銀行ハ市場ノ中心ニ立チ金融ノ整理ノ任ニ膺レリ故ニ各銀行ハ執レモ日本銀行ニ對シテ多少ノ勘定ヲ有セサルモノ無シ故ニ交換尻決算ノ法モ亦交換所小切手ヲ振出スカ如キ姑息ノ法ヲ要セス我交換所モ亦英蘭銀行ノ倫敦交換所ニ於ケルカ如ク日本銀行ノ帳簿上

ニ於テ交換尻ノ決算ヲ整理セシムルノ便利且正確ナルニ如カストシ東京交換所ハ遂ニ一大革新ヲ爲スニ決シ舊交換所ハ明治二十四年二月二十八日限リ之ヲ廢止シ更ニ第一國立銀行外十行發起トナリ日本銀行ノ同意ヲ得テ新ニ交換所ヲ組織シ之ヲ東京交換所ト稱シテ東京銀行集會所內ニ設置シ二十四年三月一日ヨリ實施セリ而シテ該規則ハ總テ八章四十條ヨリ成立シ規定スル所ノ條項ハ概ネ歐米交換所ノ組織方法ヲ折衷シタルモノナリ

三　名古屋銀行集會所及手形交換所

名古屋銀行集會所ハ明治十三年一月ノ創立ニ係ル協和會ト稱セシ一團體ニ起原セリ協和會ハ名古屋所在ノ七銀行竝ニ爲換方相謀リ懇親ヲ兼テ業務ノ進歩ヲ計ランカ爲メ一團體ヲ組織シ明治十三年一月ニ初會ヲ開キ爾後長ク繼續セシカ二十二年一月ニ至リ更ニ名古屋同盟銀行集會所ト改稱シ日々同盟銀行間ニ於ケル手形ノ交換ヲ行ヘリ然ルニ同年九月ニ至リ手形交換ノ事業ヲ廢シテ愛知同盟銀行ト改稱シ三十一年三月ニ於テ更ニ規則ヲ變更シテ名古屋銀行集會所ト稱スルニ至レリ又明治三十五年九月ニ至リ名古屋交換所ノ開始アリタリ

四　九州銀行同盟會

九州銀行同盟會ハ明治十三年十月長崎ニ於テ始メテ會合シ同業者ノ親睦ヲ計リ經濟社會ノ情態竝ニ業務上ニ關シ講究ヲナスヲ以テ目的トシ同盟區域ヲ七區域ニ分チ各區域ニ幹事長ヲ置キ同會諸般ノ事務ニ當ラシム又三十年五月中國四國銀行同盟會ト聯帶爲換取引ヲ開ケリ

五　神戸銀行集會所及手形交換所

神戸同盟銀行集會所ハ初メ明治十九年二月兵庫及神戸ニ在ル八銀行ヲ以テ組織シ兵神懇親會ト

稱シ同業者相共ニ會合シ專ラ懇親ヲ主トシ併セテ營業上ノ利害得失ヲ討究スルヲ目的トセリ明治二十九年八月ニ至リ新ニ集會所ヲ設置シ神戸同盟銀行集會所ト改稱セリ

神戸交換所ハ明治三十年七月一日ノ開始ニ係リ而シテ其目的タルヤ交換所組合銀行中ニ於テ日日收入セル各種手形小切手ヲ交換決算スルニ在リテ其差引殘高ハ正金銀行神戸支店ノ當座勘定ノ貸借振換ヲ以テ決濟スルモノトス又交換所ニ於テ交換シタル手形小切手ノ不渡又ハ交換ノ錯誤ヨリ生スル要求ハ總テ其關係銀行間ニ於テ處理スルコトヽセリ

六　中國四國銀行同盟會

中國四國銀行同盟會ハ豫讃銀行同盟會ノ發起ニ係リ中國四國所在ノ各國立銀行集會シテ營業上ノ利害得失ヲ議スルヲ目的トシ明治二十一年五月二十一日始メテ之ヲ設立セリ同年十二月ニ至テハ同盟銀行間ニ於ケル聯帶爲換取引ヲ實施シ而シテ聯帶爲換取引ニ關シテハ同盟以外ノ銀行ト雖モ中國及四國ノ各地ニ於テ營業シ又ハ中國及四國ニ於テ本店ヲ有スル銀行所屬ノ大阪支店ハ特ニ此聯帶爲換ノ同盟ニ加入スルコトヲ得ルコトヽセリ又三十年五月九州銀行同盟會ト聯合會ヲ開キ其議決ニ依リ兩同盟銀行間ニ分立セシ聯帶爲換取引ヲ合併シテ西部同盟銀行聯帶爲換取引ヲ開始セリ

七　奥羽北海銀行同盟會

奥羽北海銀行同盟會ハ奥羽北海道ノ各國立銀行十三行商議シ明治二十六年十月仙臺ニ會シテ之ヲ創設セリ此同盟會ハ奥羽六縣下及北海道所在ノ各銀行相會シテ營業上諸般ノ利害ヲ議シ互ニ交誼ヲ厚フシ若シ同盟中危險ノ營業ニ從事スルカ又ハ取引先ニ對シ信用ヲ缺ク等ノ事アルトキハ之ヲ忠告矯正セシメ又ハ不慮ノ災害等ニ罹ルトキハ出來得ヘキ丈ノ助力救援ヲ爲スヘキモノトシ此外ニ同盟銀行間ニ聯帶爲換取引ヲ實施セリ

八　横濱銀行集會所及手形交換所

横濱銀行集會所ハ明治二十七年四月之ヲ創設シ各銀行ノ役員相會シ其營業ニ關シテ商議スル所トス又明治三十三年二月ニ至リ横濱交換所ノ開始アリタリ

九　富山銀行同盟會

富山縣銀行同盟會ハ明治二十九年三月富山市ニ開キタル富山縣下各銀行ノ親睦會ニ端ヲ發シ三十一年四月ニ至リ規約書ヲ作リ一ノ集會ヲ起シタリ之ヲ此同盟會ノ創始トス而シテ其目的ハ專ラ交誼ヲ厚フシ營業ニ關スル利害ヲ攻究スルニ在リ

十　京都銀行集會所及手形交換所

京都銀行集會所ハ明治三十一年二月ノ創設ニ係リ京都市内ニ本店若クハ支店ヲ有スル銀行ノ集會スル所ニシテ相互ノ交誼ヲ厚フシ經濟上ニ關スル問題及營業上ノ利害ヲ研究スルニ在リ

京都手形交換所ハ同銀行集會所ノ創立ト殆ント同時ニシテ僅ニ十五日前ニ在リ卽チ明治三十一年一月十五日ノ創立ニ係リ交換所組合銀行中ニ於テ日々收入シタル各種ノ手形小切手ヲ交換決算スル所ニシテ其差引殘高ハ日本銀行當座勘定ノ貸借振換ヲ以テ決濟スルコトヽナシ交換シタル手形小切手ノ不渡又ハ交換ノ錯誤ヨリ生スル要求ハ總テ關係銀行ノ間ニ於テ處理スヘキモノトス

左ニ東京、大阪、京都、横濱、神戸、名古屋ノ六手形交換所ノ累年交換高ヲ揭出シテ其景況ヲ示サン

手形交換所手形交換高表

年次	東京		大阪		京都		横濱		神戸		名古屋		總計	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
明治十三年		円												
同十四年														
同十五年														
同十六年														
同十七年														
同十八年														
同十九年														
同二十年														
同二十一年														
同二十二年														
同二十三年														
同二十四年														
同二十五年														
同二十六年														

手形交換所手形交換高表

年次	東京		大阪		京都		横濱		神戸		名古屋		總計	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
同二十七年														
同二十八年														
同二十九年														
同三十年														
同三十一年														
同三十二年														
同三十三年														
同三十四年														
同三十五年														

明治財政史第十四卷 終

昭和二年十二月十日印刷
昭和二年十二月十五日發行

【明治財政史第十四卷奥附】

著作權所有

大藏省内

明治財政史編纂會編纂

右代表者　大藏省内明治財政史編纂會副委員長　河田烈

發行兼印刷者　東京市赤坂區田町七丁目三番地　草村松雄

發行所　東京市赤坂區田町七丁目三番地　財政經濟學會内

明治財政史發行所

電話青山五一一〇番(2)・振替東京一七〇八番

(東京市神田區宮本町甲正社製版印刷)

K 72

明治財政史全十五卷略目次

第一卷
第一編 緒言
第二編 財政機關
第三編 會計法規(一)

第二卷
第三編 會計法規(二)

第三卷
第三編 會計法規(三)
第四編 豫算決算

第四卷
第五編 國庫出納

第五卷
第六編 租稅(一)

第六卷
第六編 租稅(二)

第七卷
第六編 租稅(三)
第七編 葉煙草專賣

第八卷
第八編 國債(一)

第九卷
第八編 國債(二)
第九編 準備金

第十卷
第十編 預金
第十一編 恩賞諸祿
第十二編 罹災救助

第十一卷
第十三編 通貨(一)

第十二卷
第十三編 通貨(二)
第十四編 銀行(一)

第十三卷
第十四編 銀行(二)

第十四卷
第十四編 銀行(三)

第十五卷
凡例
總目錄
索引
附錄
日露戰爭ニ於ケル本邦ノ財政
財政經濟ニ關スル諸計表

562
19